

令和5年度 あすなろ幼稚園 学校評価（教職員）結果報告

1 本園の教育目標

「豊かな情操と社会性をもつこども」

「我慢強い 頑張りのきくこども」

教育基本法、学校教育法及び幼稚園教育要領に基づき、私学教育の特色を生かして人間形成を行い、強く、正しく、明るく、優しく、豊かな情操と社会性を持つこどもの特に、苦難やつらさに耐えていける我慢強いがんばりのきく子どもを育てる。

2 本年度の重点

評価項目に沿い、自己点検、自己評価を実施することによって教職員自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

粘り強く取り組む子の育成

3 評価項目

A十分に達成 B概ね達成 C取り組んでいるが不十分 D大幅な改善が必要

(1) 園運営について

	評 価 項 目	A	B	C	D
1	園の教育目標や本年度の重点が職員間で共通理解が図られている		○		
2	施設設備等の教育環境の充実・設備に努めている		○		
3	園内の園務分掌・役割分担が明確に決まっている	○			

【課題・成果等の考察～記述】

教育目標については、園が目指す子どもの姿を明確にして全職員で共通理解を図りながら園児一人一人の成長を大切にしたクラス経営の充実を目指すことができた。

重点目標については日々の HP や連絡アプリ等で地域・家庭に広く周知をするよう努めてはいるが、保護者等においては関心が薄いような感じがある。園務分掌については、業務内容を文章化し、各職員のすべき役割を明確にして円滑な園運営に結び付けることができた。

施設の年数がかなり経過しているが、毎月安全点検日を実施し、不備のある箇所は可能な限り修繕をしている。今年度は、全クラスに空調設備を設置し、夏の熱中症対策を講じることができた。

(2) 教育課程・指導計画について

	評 価 項 目	A	B	C	D
1	地域の自然や施設を活用した教育課程・指導計画を作成している		○		
2	園児の年齢や発達段階に応じた教育課程・指導計画を作成している	○			
3	常に行事や日常保育の反省を生かした指導計画の改善に努めている		○		

【課題・成果等の考察～記述】

幼稚園の教育目標「豊かな情操と社会性をもつ子ども」「我慢強い 頑張りのきくこども」の具現化のため、幼稚園教育要領を踏まえ、指導計画に加筆、修正を加えつつ、園を取り巻く環境や子どもの実態に即した教育課程及び指導計画を作成している。それぞれの季節に応じた指導計画は作成できている。さらに、行事や日々の保育の反省の場を十分に確保し、次年度への改善に結び付く指導計画を継続的に見直していきたい。そのためには、行事ごとに反省・改善について職員間で意見交換を十分に行える場を設定していく必要がある。

(3) 環境構成について

	評 価 項 目	A	B	C	D
1	園内外の清掃、整理整頓、換気、採光、室温、消毒に気を配り、安全に生活できる環境づくりをしている	○			
2	毎月、園内外の施設安全点検を実施し、修繕するよう努めている	○			
3	年齢や発達に応じた遊具、おもちゃ、教材、絵本等が準備されている	○			

【課題・成果等の考察～記述】

毎月、安全点検はしているものの園舎及び遊具等が古いため金額の張る修繕や全ての補充要請に即時に応じられない実態が課題となっている。おもちゃについては各種補助金制度の活用で補充し、絵本については、毎年、各学年向けに数十冊補充されている現状である。今後も絵本の選定など、年齢や季節に応じて見直していきたい。

各クラスによっては、清掃や物の整頓具合に差が見られることから快適な環境構成に心がけていく必要がある。

(4) 指導内容・方法について

	評 価 項 目	A	B	C	D
1	遊びを通して集団生活のルールを学んだり、我慢や粘り強さを培う経験を意図的にさせている	○			
2	園児が意欲的に造形活動（描画・製作等）や音楽活動、運動遊びに取り組む時間を十分に設定している		○		
3	メリハリのある全体指導と個に応じたきめ細かな指導を心がけている	○			

【課題・成果等の考察～記述】

日々の生活や遊び、行事への取組の中で、集団生活のルールを学ぶ中で、自分の思い通りにはならないことへの我慢や苦手なことにもあきらめずに取り組む粘り強さを身に付けさせることができた。

指導方法については、職員同士で指摘・アドバイス・相談などをし合える風土が構築されてい

る。今後も、自己流の保育にならないよう幼稚園教育要領を再確認し、理解を深めた上で、よりよい子どもたちの成長に繋がる指導方法の向上を図りスキルアップを図りたい。また、子どもたちが、楽しい園生活を送り、園児の経験を豊かに広げることができるような保育内容の提供に努めていく。

今年度は、外部講師によるリトミックや英語活動などが減らされたり実施できなかつたりしたことを踏まえ、次年度は十分な回数や時間を確保し、小学校を見据えた豊かな体験活動を保障したい。

(5) 保育者の資質向上について

	評 価 項 目	A	B	C	D
1	研修や研究会に自己課題をもって臨み、自己課題の改善や、自分の能力を一層高めるよう努めている	○			
2	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を意識した活動を工夫展開し、指導に努めている		○		
3	園児の実態を把握し、興味関心に応じた活動を展開できるよう常に教材研究を行っている。	○			

【課題・成果等の考察～記述】

各種研修会にできる範囲で参加し、研修報告をまとめるなど、自らの保育の見直しや保育の質を高められるように学んでいる。ただし、研修内容が経験年数や立場にそぐわないこともあったので事前に内容を吟味する必要がある。

園内研修としては、ケース会議を開いて、クラス運営や子どもの成長、困り感のある子どもの指導方法等、情報交換する場を設け、各教諭の学びの場となっている。幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿については、日々、意識しながら日々の保育に当たりたい。

また、毎月2回、自園に音楽講師を招聘し、課題曲や行事曲を指導していただき、担任教諭のピアノ技術を高める研修を実施している。

(6) 特別支援教育

	評 価 項 目	A	B	C	D
1	特別な支援を必要とする園児について教職員全員で共通理解を図り、支援体制を整えている	○			
2	特別な支援を必要とする園児について関係機関との連携が適切に図られている	○			
3	特別支援教育について理解を深め、園児の困り感に対応する支援に努めている	○			

【課題・成果等の考察～記述】

支援の必要な子どもの特徴や個々への対応について、有効な支援方法を職員全体で共有するケース会議を設けている。特に、大きな行事の際には、それぞれの子どもへの具体的な関わり方についていくつかのパターンを想定し、保護者にも了解を得て全職員で共通理解を図りながら取り組む支援体制が確立している。

各種関係機関との連携については、保護者の同意を得た上で、個別の支援計画等を提供いただいたり、長期休業中を利用して関係機関での子どもの様子を見学したり、通常時には来園していただいたりするなど、双方向でのきめ細かい連携が図られている。

特に特別支援コーディネーターが保護者の思いやニーズを把握し、教育相談や巡回相談などを実施するなどして、少しでも保護者や子どもの困り感を軽減し、よりよい発達を促すようその役割を果たしている。

(7) 家庭・地域との連携

	評 価 項 目	A	B	C	D
1	園だより・クラスだより・HP等で幼稚園の情報を適切に伝えている	○			
2	未就園児への園開放や保護者の要望に応じた預かり保育を実施し、子育て支援に努めている	○			
3	行事への積極的な参加や幼稚園運営への理解・協力を促している		○		

【課題・成果等の考察～記述】

園だより・クラスだより・HP・連絡アプリ等で日々の活動報告、各種連絡、子どもの成長の様子など継続的に幼稚園の情報を発信し、家庭地域へ幼稚園教育に対する理解を深めることができた。特に、日々の保育活動については、連絡アプリで毎日、情報発信しており、保護者からも高評価をいただいている。

また、個人懇談週間を設定し、個々の子どもの様子や保護者からの要望など聞き取り、意思疎通を図っている。緊急時には、メールにて連絡事項を保護者に迅速、正確に伝え、情報提供をスムーズに行う事ができている。

園開放についてもその都度、活動報告を HP にて発信し、在園児以外にも子育て相談を受けることが多く、保護者の支援も実施できている。なお、HP をリニューアルしたことにより双方向で連絡しあえるようになり、活用の幅が広がった。

預かり保育の利用については、保護者の就労に関わらず、いつでも利用できることをお便りや声掛けするなどして広く周知している。

(8) 危機管理について

	評 価 項 目	A	B	C	D
1	園の施設の安全点検、消毒等の衛生管理をしっかりと行っている	○			
2	諸費等の会計処理を正確に行っている	○			
3	保育等の問題や保護者から出た意見は必ず園長に報告している	○			

【課題・成果等の考察～記述】

定期的に不審者対応や地震、火災など緊急時や災害時における避難訓練を実施しているが、今後、様々な災害を想定しながらその対応方法や職員の役割分担の理解を一層深め、災害に備えていく必要がある。また、いかなる時も子ども自身が「自分の命は自分で守る」という意識をもち、子ども自らが行動できるよう育てている。

また、帰りの打合せでは、各クラスの活動や成長の様子、問題等報告し合い、全職員で確認するとともに「ヒヤリハット」記録を導入し、職員の危機意識の高揚を図っている。

衛生管理については、マスクの着用が任意になったからこそ、消毒作業や換気に細心の注意を払い日々継続して、しっかりと行っている。

会計処理については、明細書に間違いがないか再確認して取り組んでいるが、間違いを防止するためにも担任以外の事務専門の職員に委ねたい。

4 学校関係者評価委員会のご意見

- 連絡アプリ（ハグノート）で毎日子どもの様子が見ることができ、大変ありがたい。
⇒今後も引き続き、情報提供に努めていきたい。
- 英語教室がなくなったことが残念である。ぜひ、再開し、幼稚園の特徴としてアピールしてほしい。
⇒本部に要望し、次年度は再開の予定
- 昨年まではコロナ禍で対応が大変だったと思うが、今はどのようなことが変わったか？
⇒引き続き、消毒・換気等入念に行っているので拡大防止の作業自体は変わらないが
今後は、行事の内容や在り方を見直し、慎重に取り組んでいきたい。
- 危機管理の観点から今年度、全クラスにエアコン設置ができたことがよかった。
先日、誤飲による痛ましい学校事故があったが、突然の事故対応ができるよう、AEDの使い方も含め、定期的に職員の研修を実施するとよいと思う。
⇒あってはならない事故防止のため、気を引き締め、取り組んでいきたい。
- 園開放などを通して、子育て支援を行っていることは大変良いことである。もっと家庭、地域に広く周知した方が良いと思われる。
⇒今後も保護者はもとより、幼稚園として地域に向けた子育て支援に貢献できるように地域に周知し、取り組んでいく。